

▽ ウィルコックス・ドナルド・クレイグ 教授 WILLCOX, Donald Craig



学 科： 人間福祉学科
 担当科目： 公衆衛生学、老年学概論、
 フレッシュマンセミナー、基礎演習、専門演習、
 社会福祉基礎、卒業論文演習

学歴等のプロフィール

- ①【主要学歴】 ②【学位】 ③【所属学会】 ④【主要な社会的活動】

② University of Toronto, 国立琉球大学
② 医療人類学博士、保健学修士
③ Gerontological Society of America, International Epidemiological Association, 日本民族衛生学会、日本老年社会科学会、 南島文化研究所、人間ドク学会、九州農村医学会(評議員)
④ 宜野湾市福祉計画委員会(副委員長); 宜野湾市老人福祉計画委員会(副委員長); Future-Age EU Roadmap for Aging Research 計画委員会; International Centenarian Studies Consortium(ICC)計画委員会; Journal of Gerontology:Biological and Medical Sciences 編集委員会; Current Gerontology and Geriatrics Research:Lead Guest Editor.

教育活動等

主な教育活動	年月日	摘要
1.教育活動・方法の実践例 1) 老年学概論 I	2010年4月～8月 (前期)	講義形式 80人の学生が参加した。この講義では、老年社会学にまたがる学際的な研究と、それらの理解を目標に講義を行った。講義中は日本の高齢化社会の状況、世界的に起こっている高齢化の現状、認知症への理解等のテーマについて、グループワークも交えながら諸問題について考え、学生同士の意見交換も行い、老年学の理解と学習を促した。 また、ゲストスピーカーを招き、沖縄と米国のオレガン州の80歳以上の高齢者の認知症問題の比較を行ったプロジェクトについて説明をしていただいた。
2) 老年学概論 II	2010年10月～ 2011年2月	講義形式 70人の学生が参加した。前期の老年学概論 I の継続内容の講義で、前期で獲得した知

	(後期)	<p>識と確認をしながら講義を行った。日本の所在不明の百寿者問題や、高齢者の医療・福祉と介護、サクセフル・エイジング等、日本を含め国際的な高齢化が進行している中での高齢者問題や、高齢者の生きがいとは何かについて、講義を行った。「沖縄の超高齢者の健康・長寿」についてのテーマでゲストスピーカーを招き、年齢に伴う障害や疾病をどのように軽減しながら生活を行っていくかなど、学生たちにも興味深い内容のテーマで講演を行っていただいた。</p>
3)フレッシュマンセミナー	2010年4月～8月 (前期)	<p>新入生のゼミを担当した。フレッシュマンセミナーでは合同ゼミ、個別ゼミを通して、大学をどう活用していくか等を学んだ。4月末には障害者スポーツを体験しながら学ぶ「1日研修」を学科の交流を含めながら行った。</p>
4)基礎演習	2010年10月～ 2011年2月 (通年)	<p>基礎演習では、学生生活の勉強面で必要になる知識や技術の習得を行っていった。講義の初期は学生たちの意見聞きこれかの大学生活の勉強面で何に困っているのかを講義を通して確認し、その中から、大学生として必要になるプレゼンテーションの方法やレポート類の書き方を体験を交えながら習得を行った。</p>
5)専門演習 I	2010年4月～ 2011年2月 (通年)	<p>2年生ゼミ。国際福祉に関する教科書を活用し、学生によるプレゼンテーションで国際的な機関や各国の福祉問題について学習を行った。また、演習中はあくまで学生のサポートという立場をとり学生主体の発表を行い、自発的に学習をする環境を整えた。JICA 沖縄にて訪問学習を行い事業活動、海外ボランティアについて学んだ。沖縄県国際交流・人材育成財団から講師を招き、財団での活動内容等紹介をしていただいた。また、琉球大学からゲストスピーカーを招待し、人間開発指数(HDI)など多くの指数の説明をしてもらい、日本とブータンの指数の差の違いでどのように経済や福祉、幸福感の面でどのような違いがあるかを説明していただいた。学生たちも、今ある日本の状況を他国と比較しつつ考えることが出来る良いきっかけづくりとなった。</p> <p>また、キャンプフォスター基地のファミリーサポートセンターへ訪問学習を行い、アメリカの支援方法</p>

		や基地独特の問題への支援について説明を行っていただいた。違う文化の福祉支援を直接感じられる良い機会となった。
6) 専門演習	2010年4月～ 2011年2月 (通年)	本演習は、3年生の演習で、2年生で行ってきた学習をさらに発展させ知識の獲得を行った。また、社会調査士資格科目であるため、夏休みを利用し、今帰仁村へ97歳以上の高齢者に対し社会調査を実施した。学生たちに調査、結果をまとめ報告書を作成する一連の社会調査作業をおこない、彼らの将来へ向けて良いきっかけを作ることが出来た。
7) 卒業論文演習	2010年4月～ 2010年3月 (通年)	卒業論文を書くための演習ゼミ。 ゼミ時に学生たちが取り組んでいる卒業論文の現状把握を行い、相談やアドバイスをを行った。 演習期間中はゼミで集まることもあるが個別面談も行った。各学生が研究室を訪れ、相談やアドバイスをを行った。 7月と10月には中間発表を行い、それぞれの学生が取り組んでいる論文の進行状況を互いに確認し合う機会を設けた。また、年度末には、学生たちが書いた論文をまとめた報告書も作成している。
8) 国際フィールドワーク	2010年9月8日～ 9月19日	人間福祉学科の2～4年生の学生9名とともに国際フィールドワークを行った。私はハワイコースの担当で、学生たちが研修を有意義に行えるために事前学習からアドバイスをし、左記載の期間でハワイを訪れ参加学生と9か所の施設を回り、ハワイの社会福祉実践を学んできた。また、ハワイ大学にて先生方に講義をしていただきハワイとアメリカの福祉制度について学ぶことが出来た。さらに講義終了後には、在學生と交流会も行い、国際交流を持つことが出来た。学生たちは、日本とは違う外国の社会福祉に触れることにより、日本の福祉の問題点について国際的な視野から見る事が出来るようになったと感じた。
9) 国際福祉ゼミ交流会	2010年7月	私の担当する2～4年生のゼミ学生や関係者を招き、交流会を行った。そこでは、気軽な交流の中で、下級生の学生生活や、講義、資格取得への疑問の相談を上級生に相談しこれからの学校生活をより楽しく過していくことが出来るよう機会を設けた。また、学生同士の交流のきっかけをさせることが出来た。

10)外国人留学生の受入 世話役	2007 年度	日米教育委員会(FULBRIGHT)からの沖縄の文化と生活習慣と長寿に興味のある留学生の世話役 6 ヶ月間を行う。留学生が良い環境で学習できるよう、大学内での様々な機関の紹介や住宅紹介、生活指導を行った。
	2009 年度 8 月～9 月	カナダのケベック大学(Universite du Quebec)から日本学術振興会サマープログラムで健康長寿に関する論文作成の為に本大学に訪れた大学院生の世話役を行う。論文作成の為にアドバイスや、調査の研修、私自身の参考になる論文や研究の内容を説明した。
11)修士論文指導教官	2010 年度	大学院生の指導教官を行った。
2. 作成した教材等 1) 老年学概論 I 老年学概論 II	2010 年 4 月～8 月 10 月～2011 年 2 月	教科書の内容に合わせたパワーポイントプレゼンテーションファイルを作成し講義内で活用している。3回目修正を行い最新の情報を交えながら学生に講義を行っている。必要に応じて学生には講義に関連した情報を講義ごとに資料を作成し配布を行っている。
3. 学生支援活動 1) 学習支援	2010 年度	学生の講義履修に関して、相談を行い、必要であれば教務課や関係先に繋げたりする役割を行う。
3. 学生支援活動 1)	2008 年～ 2010 年度	入学前オリエンテーションにて、学生に対して大学のシステム、学科の学習内容の説明を行った。
2) 部活動支援	2008 年～ 2010 年度	ソフトボール部の顧問を担当する。 部活生の必要に応じて、施設の使用許可書の作成などを行った。
3) ミニオープンキャンパス	2009 年度 6 月 2010 年度 6 月	大学にて開催されたミニオープンキャンパスにて各年度 10 人前後の人間福祉学科へ興味を持っている高校生へ、学科の特徴や、専攻ごとの特色や勉強内容の違いについて説明を行った。 また、合わせて沖縄国際大学にある福祉・ボランティア支援室を紹介し、ボランティア経験のある大学生との交流も企画した。
4) オープンキャンパス	2008 年度 10 月 2009 年度 10 月 2010 年度 10 月	大学で開催されたオープンキャンパスにて、人間福祉学科へ興味を持っている来場者に対して、私が担当するゼミ生たちとともにゼミの学習内容を紹

		<p>介し、人間福祉学科社会福祉専攻の特徴、学習内容を掲示物を使いながら説明を行った。</p> <p>来場者へ社会福祉専攻の特徴や、勉強内容など紹介する良い機会となり、学生たちも来場者野からの質問に良く答えてくれていたので、学生たちにも日頃の勉強内容を発表する良い機会となった。</p>
<p>4. 学外での教育活動</p> <p>沖縄オレゴン高齢者比較 研究報告会</p>	<p>2008 年度 10 月 19 日</p>	<p>2007 年 11 月～2008 年 2 月に行われた沖縄県宜野湾市とアメリカオレゴン州の 80 歳以上の比較的健康な高齢者を対象に行われた長寿についての報告会を行った。研究に興味のある学生や、実際に研究に参加された方々や一般の方を対象に発表を行った。認知症の比較や、健康状態の比較等、認知症予防についての講演を行った。</p>
<p>5. 教育改善活動</p> <p>1)2010 年度 授業評価アンケート</p>	<p>2010 年度</p>	<p>学校内で行われたアンケートを元に、講義内容の変更や、学生たちが興味を持っている分野のゲストスピーカーを招き講演していただくなど、学生の意見を多く取り入れた。多くの学生に対し良い学びが提供できるよう今後もアンケートを参考にしながら改善を行った。</p>
<p>2)リフレクションシートの活用 基礎演習</p>	<p>2010 年度 10 月</p>	<p>ゼミ学生に対して、講義初期の段階で学生が学びたいことなど今後演習でどのような内容を学びたいかなどアンケートを通して学生の声を聞く機会を設けた。学生たちからは、レポートの書き方、ボランティアをしたい等の質問が多くあり、それについては学生と一緒に勉強を行い、大学内にあるボランティア支援機関を紹介した。</p>
<p>専門演習 I</p>	<p>2010 年度 5 月</p>	<p>通年講義の最初の段階で、学生たちに国際福祉のどの分野について学習したいかなどをアンケートを通して学生の声を聞いた。学生たちは、世界の児童問題、子ども兵士の問題など多岐にわたる分野に興味があった。学生の要望に対してゲストスピーカーを招待し講演を行っていただいた。その他にも関係する文献を使用し学習を行った。</p>

研究業績等

【 主要論文及び主要著書 】 (2008-現在)

主要著書

- 「Calorie Restriction, Aging and Longevity」 共著 Springer Science 2010 年;
「The Cultural Context of Aging: Worldwide Perspectives」 共著 Praeger Publishers 2009 年 ;
「Okinawa L'Isola Dei Centenari」 共著 Sperling & Kupfer 2008 年.

主要論文

2011 年

1. Willcox DC, Suzuki M, Ashitomi I, Willcox BJ. 「超高齢者における要介護状態・健康障害の増加傾向～新たな虚弱年齢層出現の兆し～」『人間福祉研究』2011 [In Press].
2. Willcox BJ, Willcox DC, et al. Oxidative stress and longevity in Okinawa: An investigation of blood lipid peroxidation and tocopherol in Okinawan centenarians. *Curr Gerontol Geriatr Res.* 2011[In Press].
3. Willcox D, Willcox B, Poon L. (Ed). Centenarians: How Their Studies Contribute to Our Understanding of Aging Process and Longevity. *Curr Gerontol Geriatr Res.* 2011 [In Press].

2010 年

1. Dodge HH, Katsumata Y, Todoriki H, Yasura S, Willcox DC, Bowman GL, Willcox B, Leonard S, Clemons A, Oken BS, Kaye JA, Traber MG. Comparisons of plasma/serum micronutrients between Okinawan and Oregonian elders: a pilot study. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci.* 2010;65:1060-1067.

2009 年

1. Willcox DC: Aging, reciprocal dependency and changing social support systems in a rural Okinawan village 「沖縄の農村地域における高齢化、相互依存、社会的支援システムの変化について」『人間福祉研究』第7巻第1号 2009; pp.13-56.
2. Willcox DC, Risky business, life expectancy and the gender gap in Okinawa: Why women are on top and men in middle. 沖縄女性研究者の会 2009; 6月第6号 2009; pp.21-35.
3. Willcox DC, Willcox BJ. FOXO3A genotype and human longevity: the new APOE? *Japanese J Anti-Aging Med.* 2009;5:804-809.
4. Willcox DC, Willcox BJ, Todoriki H, Suzuki M: The Okinawan diet: health implications of a low-calorie, nutrient-dense, antioxidant-rich dietary pattern low in glycemic load. *J Am Coll Nutr.* 2009; 500S-516S.

2008 年

1. Willcox BJ, Willcox DC, Ferrucci L. Secrets of healthy aging and longevity from exceptional survivors around the globe: lessons from octogenarians to supercentenarians. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci.* 2008;63(11):1181-5.
2. Willcox DC, Willcox BJ, Wang T, Rosenbaum M, Suzuki M. Life at the extreme limit: phenotypic characteristics of supercentenarians in Okinawa. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci.* 2008; 63(11):1201-8.

3. Willcox BJ, Donlon, TA, He Q, Chen R, Yano K, Masaki KH, Grove JS, Rodriguez, BL, Willcox DC, Curb JD. FOXO3A Genotype is Strongly Associated with Human Longevity. *Proc Nat'l Acad Sci U S A*. 2008;105:13987-13992.
4. Willcox DC, Willcox BJ, He Q, Wang N-C, Suzuki M. They really are that old: a validation study of centenarian prevalence in Okinawa. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci* 2008;63:338-349.

研究分野

老年保健・医学、公衆衛生学、疫学、健康科学

【Eメール・ホームページ等】

d.willcox@okiu.ac.jp

平成 23年 10月 1日現在